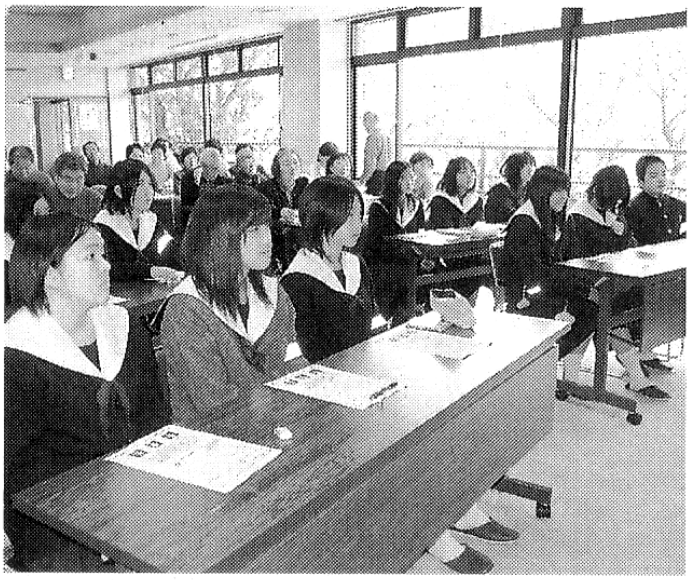
熱海新聞　平成２２年（2010年）１月２５日

旧日向邸別邸保存会が講演会

地下室の〝謎〟語る

講師に小柳さん　熱中生13人も熱心に聴講



講師の小柳さん

旧日向別邸保存会（中井正勝会長）は24日、熱海市昭和町の起雲閣で月例講演会「重要文化財・旧日向別邸を知ろう！」を開いた。会員と一般に加え、市立熱海中学校吹奏楽部の部員13人が集まり、会員の小柳由美子さんによる「タウトと3人の音楽家たち」と題した特別講演と、中井会長の講演「ファサード（タウトの部屋玄関）」に耳を傾けた。

同保存会は、旧日向別邸の維持・保存に取り組む市民有志の会で、旧日向別邸を市民に知ってもらおうと、昨年7月から月例講演会を開いている。中井会長以外が講師を務めたのは今回が初めて。

ドイツ出身の建築家ブルーノ・タウトが設計した旧日向別邸の地下室は社交室、洋風客間、日本間それぞれに「ベートーベン」「モーツァルト」「バッハ」と名付けられており、特別講演はその〝命名の謎〟がテーマ。音楽家にちなんだ講演とあって、熱海中吹奏楽部の部員も受講した。

4年にわたり、ボランティアガイドを務める小柳さんは「なぜタウトが3つの部屋をこのように命名したのか、謎だった。昨年秋、市内在住のバイオリニスト沼田園子さんに見学してもらい、その謎が解明された」と語り、沼田さんが各部屋を見て述べた言葉と、その部屋の特徴、魅力について紹介した。

「バッハは3人の音楽家の中で一番年代が古い。曲は直線的、数学的なテイストで、日本間の特徴に合う。モーツァルトは装飾が多く、軽快で優美な曲が多い。洋風客間も壁紙にワインレッドのシルクを使うなど優美。また、ベートーベンは大衆的で、人を驚かす曲が多い。社交室は手に入りやすい竹を階段の手すりに使ったり、天井が動くように見えたりする。ベートーベンと呼ぶにふさわしい」などと話した。

次回は2月28日午後1時から、起雲閣ギャラリーで開く。問い合わせは保存会事務局の矢崎さん〈電050（7577）4862〉へ。

熱海中吹奏楽部の部員も参加。講演に耳を傾けた＝昭和町の起雲閣で